

平成 28 年 度

四日市港管理組合の連結バランスシート等財務諸表

## 平成28年度連結財務書類 4 表

### 1 はじめに

財務書類に関しては、平成12年3月及び平成13年3月に、総務省の「地方公共団体の総合的な財政分析に関する調査研究会報告書」において示された基準（いわゆる「総務省方式」）に基づき、管理組合において作成し、ホームページに掲載してきたところです。その後、平成27年1月に総務省から「統一的な基準による地方公会計の整備促進について」が出され、平成29年度までに統一的な基準に基づく財務書類を作成することが各地方公共団体に対して要請されました。

これを受け、統一的な基準に基づき、今回、平成28年度財務書類 4 表を作成し、公表することとしました。なお、一般会計の決算にあわせて、特別会計の決算についても加え、連結財務書類としました。

### 2 連結財務書類 4 表の整備の意義

#### (1) 現金主義による会計処理の補完

現金主義会計では、見えにくいコスト（減価償却費、退職手当引当金等）を明らかにするほか、資産・債務といったストック情報を把握することができます。

#### (2) 情報開示の手段の一つとして

現金主義会計における決算書や決算統計などの書類には、財政分析を行ううえで有意義な情報がありますが、一覧性に欠けることがあります。貸借対照表などの財務書類 4 表は、財務情報をコンパクトかつ総覧的に示し、情報開示の手段として有効に活用することができます。

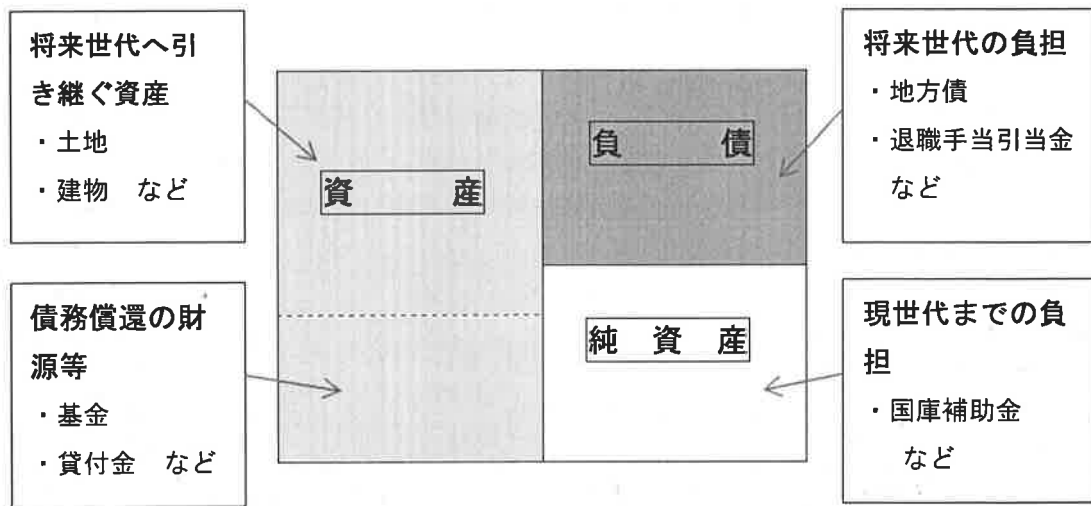
### 3 連結財務書類 4 表各表の特徴（読み方）

#### (1) 連結貸借対照表

地方公共団体がサービスを提供するために保有している資産と、その資産をどのような財源で賄ってきたかを総括的に表示した一覧表です。

##### 【何がわかるか】

- ・ 将来世代に引き継ぐ資産の金額はどれぐらいか。
- ・ 将来世代の負担はどれぐらいか。



## (2) 連結行政コスト計算書

4月1日から翌年の3月31日までの1年間の行政活動（四日市港の管理運営等）の実績に関する情報をコスト（経費）という側面から把握するものです。

組合の活動は、港湾資産の形成だけでなく、港湾サービスの提供、安全の提供、港湾施設の管理や維持修繕、港湾環境の保全など資産形成につながらない各サービスを行っています。こうした行政サービスに係る経費とその行政サービスの直接の対価（使用料、手数料など）として得られた財源を対比させたものです。

### 【何がわかるか】

- ・ 経常的な行政サービスにかかったコストはどれぐらいか。
- ・ 受益者負担でどれほどコストが賄われたか。

## (3) 連結純資産変動計算書

連結貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値が1年間でどのように変動したかを表したものです。

### 【何がわかるか】

- ・ 現世代までの負担とされる純資産がどのように変動したのか。
- ・ 資産はどのような財源で形成されたのか。

## (4) 連結資金収支計算書

資金の出入りの情報を、「業務活動収支」、「投資活動収支」及び「財務活動収支」の3つに分けて表したものです。

### 【何がわかるか】

- ・ 業務活動や投資活動の財源はどのようになっているのか。
- ・ 年間での資金の変動はどうなっているのか。

#### 4 各表の概要

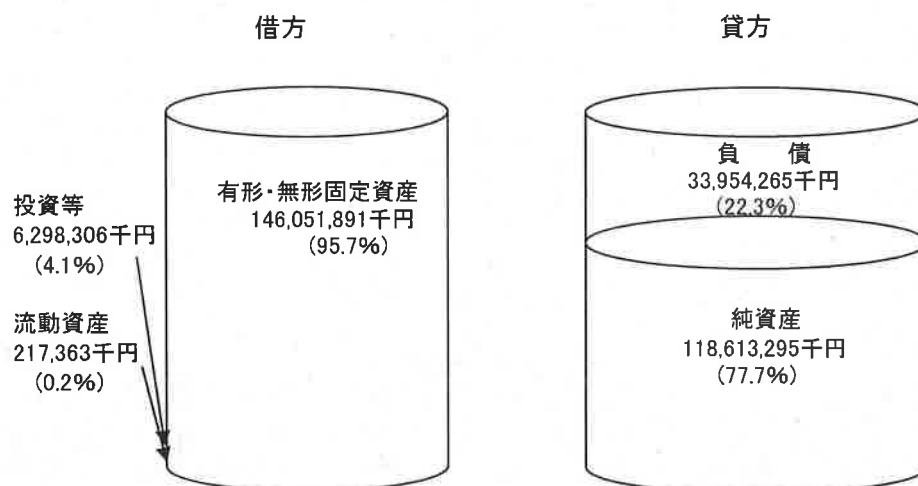
##### (1) 連結貸借対照表(連結バランスシート)

(平成29年3月31日現在)

借方		貸方	
将来世代へ引き継ぐ社会資本		将来世代の負担となる債務	
1. 有形固定資産	146,050,299千円	1. 固定負債	30,641,361千円
2. 無形固定資産	1,592千円	2. 流動負債	3,312,904千円
		負債合計	33,954,265千円
債務償還の財源等		これまでの世代の負担	
3. 投資等	6,298,306千円	1. 純資産	118,613,295千円
4. 流動資産	217,363千円		
資産合計	152,567,560千円	負債・純資産合計	152,567,560千円

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

##### 連結バランスシートの構成



##### 【県民1人あたり連結バランスシート】

県民1人あたりの連結バランスシートは、連結バランスシート上の各々の金額を住民基本台帳人口で除して算出したものです。県民1人あたりの資産は約8万5千円、負債は約1万9千円となりました。

(単位:円、人)

	H28年度末
資産	84,756
負債	18,863
純資産	65,894
住基人口	1,800,073

## 【平成28年度連結バランスシート各項目の説明】

### <資産の部>

資産は、管理組合の活動結果として形成されたもので、港湾サービスを提供するための経営資源として用いられるものです。現金預金、土地、建物、出資金等です。

#### ①有形固定資産

有形固定資産は、土地、建物、道路、公園といった不動産や車輛、高額備品等の動産をいい、目的別に区分しています。

○事業用資産は、建物、船舶、公園の遊具などインフラ資産及び物品以外の資産で、約927億円です。

○インフラ資産は、管理組合管理の海岸護岸、岸壁、防波堤、港湾道路、公園など港湾施設にかかる資産であり、約533億円です。

#### ②無形固定資産

無形固定資産は、すべてソフトウェアにかかる資産であり、約160万円です。

#### ③投資等

投資等は、管理組合に関連する団体への出資金や特定の目的に使用するために積み立てられた基金の残高です。

○投資及び出資金は、四日市港国際物流センター(株)への出資金などで約6千万円です。

○基金は、ひき船事業基金、港湾整備事業基金及び環境整備基金の合計で約62億円です。

#### ④流動資産

流動資産は、形式収支に相当する歳計現金等の現金預金などです。現金預金は、約2億2千万円で毎年の決算状況により増減があります。

### <負債の部>

負債は、資産を形成するために用いられた組合債の未償還残高など後年度の負担となるもので、「固定負債」と「流動負債」に区分されます。

#### ①固定負債

○地方債は、組合債残高のうち1年以内償還予定額を除いたもので約304億円あります。組合債残高は、今後大きな事業が見込まれない場合は、減少傾向となります。

○退職手当引当金は、組合のプロパー職員が作成基準年に普通退職したと想定した場合の退職手当額の総額から翌年度支払予定退職手当を控除した額で、約2億6千万円になります。

#### ②流動負債

○1年以内償還予定地方債は、地方債のうち作成基準日の翌日から1年以内に償還を予定している元金償還額で約32億円となっています。

○賞与等引当金は、平成28年度負担相当額約7千万円を計上しています(平成29年6月に支払うことが予定される期末手当及び勤勉手当の6分の4を計上しています)。

### <純資産の部>

資産と負債の差であり、これまでの世代により負担され、後世代が実質的に引き継ぐ価値を示しており、国からの補助金、一般財源などを純資産としています。

(2) 連結行政コスト計算書

【概要】

連結バランスシートが、地方公共団体の資産、負債等の状況を明らかにするものであるのに対し、連結行政コスト計算書は人的サービスや給付サービスなど資産形成につながるの行政サービスの経費を総合的にわかりやすく説明するものです。

管理組合の平成28年度末の経常費用総額は約56億円となり、経常収益を差し引いた純経常行政コストは約27億円です。

(平成28年4月1日から平成29年3月31日まで)

〔経常費用〕		(単位:千円、%)	
区	分	金額	構成比
1 人件費(業務費用)	(1)職員給与費	739,794	13.1
	(2)賞与等引当金繰入額	65,734	1.2
	(3)退職手当引当金繰入額	0	0.0
	計	805,528	14.3
2 物件費等(業務費用)	(1)物件費	514,036	9.1
	(2)維持補修費	297,575	5.3
	(3)減価償却費	1,132,354	20.1
	計	1,943,965	34.5
3 その他の業務費用	(1)支払利息	432,490	7.7
	(2)徴収不能引当金繰入額	0	0.0
	計	432,490	7.7
4 移転費用	(1)補助金等	11,375	0.2
	(2)社会保障給付	8,470	0.2
	(3)その他(他団体への負担金等)	2,428,262	43.1
	計	2,448,107	43.5
経常費用 計		5,630,090	100.0

〔経常収益〕		(単位:千円、%)	
1	使用料・手数料	629,317	21.7
2	その他	2,276,706	78.3
経常収益 計		2,906,023	100.0

(差引)純経常行政コスト	2,724,067
--------------	-----------

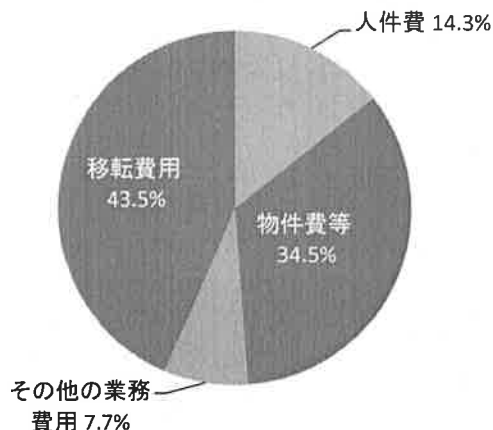
(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

〔臨時利益〕		(単位:千円、%)	
1	資産売却益	540	2.7
2	その他	19,657	97.3
経常収益 計		20,197	100.0

(差引)純行政コスト	2,703,870
------------	-----------

(四捨五入のため、合計が合わない場合があります。)

【経常費用の構成比】



## 【県民1人あたりの経常費用】

県民1人あたりの経常費用は、連結行政コスト計算書上の各々の金額を住民基本台帳人口で除して算出したものです。県民1人あたり3,128円となりました。

(単位:円、人)	
性質別	H28年度末
1 人件費(業務費用)	447
2 物件費等(業務費用)	1,080
3 その他の業務費用	240
4 移転費用	1,360
経常費用 合計	3,128
住 基 人 口	1,800,073

### (3)連結純資産変動計算書

連結純資産変動計算書は、連結貸借対照表の純資産の部に計上されている各数値について、会計期間中の動き、すなわち政策形成上の意思決定またはその他の事象による純資産やその内部構成の変動を明らかにすることを目的として作成するものです。約27億円の純行政コストに対して、約24億円の財源があることが分かります。

### (4)連結資金収支計算書

連結資金収支計算書は、資金の出入り情報を性質の異なる3つの区分に分けて表示した財務書類です。3つの区分とは、「業務活動収支」、「投資活動収支」、「財務活動収支」になります。

#### ①業務活動収支の内訳

業務活動収支には、人件費や物件費などの支出や使用料・手数料などの収入が計上されており、日常の行政活動による資金収支の状況が表示されています。支出は大きいものから、人件費が約8億円、物件費等が約5億4千万円、支払利息が約4億3千万円となっています。一方、収入は大きいものから、国県等補助金が約32億円、事業収入(「その他の収入」の内数)が約22億円、使用料・手数料が約6億円と

#### ②投資活動収支の内訳

投資活動収支には、主に公共施設等の整備などによる支出とその財源である補助金などによる収入が計上されており、いわゆる公共事業に伴う資金の用途とその財源の状況が表示されています。支出の主なものとしては、自団体で行う公共施設等整備に約16億円、国直轄事業負担金(「その他の支出」に計上)に約24億円であり、収入の主なものとしては、国県等補助金が約2億6千万円となっています。

#### ③財務活動収支の内訳

財務活動収支には、借金の借入と返済による資金の出入りの状況が表示されています。支出としては、地方債償還額の約34億円、収入としては、地方債発行額の32億円となっています。

# 貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位:千円)

科目	金額	科目	金額
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
固定資産	152,350,197	固定負債	30,641,361
有形固定資産	146,050,299	地方債	30,379,345
事業用資産	92,748,860	長期未払金	0
土地	75,810,408	退職手当引当金	262,016
立木竹	0	損失補償等引当金	0
建物	8,528,162	その他	0
建物減価償却累計額	△ 4,871,041	流動負債	3,312,904
工作物	44,243,010	1年内償還予定地方債	3,240,536
工作物減価償却累計額	△ 31,193,470	未払金	0
船舶	326,433	未払費用	0
船舶減価償却累計額	△ 94,642	前受金	0
浮標等	0	前受収益	0
浮標等減価償却累計額	0	賞与等引当金	65,734
航空機	0	預り金	6,634
航空機減価償却累計額	0	その他	0
その他	7,356		
その他減価償却累計額	△ 7,356	負債合計	33,954,265
建設仮勘定	0		
インフラ資産	53,261,349	<b>【純資産の部】</b>	
土地	48,650,508	固定資産等形成分	152,350,197
建物	0	余剰分(不足分)	△ 33,736,902
建物減価償却累計額	0		
工作物	48,372,821		
工作物減価償却累計額	△ 43,761,980		
その他	0		
その他減価償却累計額	0		
建設仮勘定	0		
物品	146,486		
物品減価償却累計額	△ 106,396		
無形固定資産	1,592		
ソフトウェア	1,592		
その他	0		
投資その他の資産	6,298,306		
投資及び出資金	59,500		
有価証券	52,500		
出資金	7,000		
その他	0		
投資損失引当金	0		
長期延滞債権	0		
長期貸付金	0		
基金	6,238,806		
減債基金	0		
その他	6,238,806		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
流動資産	217,363		
現金預金	217,363		
未収金	0		
短期貸付金	0		
基金	0		
財政調整基金	0		
減債基金	0		
棚卸資産	0		
その他	0		
徴収不能引当金	0		
資産合計	152,567,560	純資産合計	118,613,295
		負債及び純資産合計	152,567,560



# 行政コスト計算書

自 平成28年4月 1日  
至 平成29年3月31日

(単位: 千円)

科目	金額
経常費用	5,630,090
業務費用	3,181,983
人件費	805,528
職員給与費	739,794
賞与等引当金繰入額	65,734
退職手当引当金繰入額	0
その他	0
物件費等	1,943,965
物件費	514,036
維持補修費	297,575
減価償却費	1,132,354
その他	0
その他の業務費用	432,490
支払利息	432,490
徴収不能引当金繰入額	0
その他	0
移転費用	2,448,107
補助金等	11,375
社会保障給付	8,470
他会計への繰出金	0
その他	2,428,262
経常収益	2,906,023
使用料及び手数料	629,317
その他	2,276,706
純経常行政コスト	2,724,067
臨時損失	0
災害復旧事業費	0
資産除売却損	0
投資損失引当金繰入額	0
損失補償等引当金繰入額	0
その他	0
臨時利益	20,197
資産売却益	540
その他	19,657
純行政コスト	2,703,870

## 純資産変動計算書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	合計	固定資産 等形成分	
		固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	118,964,415	152,847,406	△ 33,882,991
純行政コスト(△)	△ 2,703,870	/	△ 2,703,870
財源	2,352,750	/	2,352,750
税収等	0	/	0
国県等補助金	2,352,750	/	2,352,750
本年度差額	△ 351,120	/	△ 351,120
固定資産等の変動(内部変動)	/	△ 497,209	497,209
有形固定資産等の増加	/	533,748	△ 533,748
有形固定資産等の減少	/	△ 1,132,354	1,132,354
貸付金・基金等の増加	/	111,397	△ 111,397
貸付金・基金等の減少	/	△ 10,000	10,000
資産評価差額	0	/	/
無償所管換等	0	0	/
その他	0	0	/
本年度純資産変動額	△ 351,120	△ 497,209	146,089
本年度末純資産残高	118,613,295	152,350,197	△ 33,736,902

# 資金収支計算書

自 平成28年4月 1日

至 平成29年3月31日

(単位:千円)

科目	金額
<b>【業務活動収支】</b>	
業務支出	2,097,274
業務費用支出	2,077,429
人件費支出	803,328
物件費等支出	544,036
支払利息支出	432,490
その他の支出	297,575
移転費用支出	19,845
補助金等支出	11,375
社会保障給付支出	8,470
他会計への繰出支出	0
その他の支出	
業務収入	5,952,019
税込等収入	0
国県等補助金収入	3,161,029
使用料及び手数料収入	600,412
その他の収入	2,190,578
臨時支出	0
災害復旧事業費支出	
その他の支出	
臨時収入	
<b>業務活動収支</b>	<b>3,854,745</b>
<b>【投資活動収支】</b>	
投資活動支出	4,148,080
公共施設等整備費支出	1,567,582
基金積立金支出	152,236
投資及び出資金支出	
貸付金支出	
その他の支出	2,428,262
投資活動収入	423,067
国県等補助金収入	255,554
基金取崩収入	51,940
貸付金元金回収収入	
資産売却収入	
その他の収入	115,573
<b>投資活動収支</b>	<b>△ 3,725,013</b>
<b>【財務活動収支】</b>	
財務活動支出	3,358,036
地方債償還支出	3,358,036
その他の支出	
財務活動収入	3,237,000
地方債発行収入	3,237,000
その他の収入	
<b>財務活動収支</b>	<b>△ 121,036</b>
本年度資金収支額	8,696
前年度末資金残高	202,033
本年度末資金残高	210,729
前年度末歳計外現金残高	5,884
本年度歳計外現金増減額	750
本年度末歳計外現金残高	6,634
本年度末現金預金残高	217,363